

【単年度事業評価様式】

**港北地域子育て支援拠点事業
平成27年度重点目標評価結果・次年度重点目標**

事業実施期間	平成27年4月1日～28年3月31日(1年度目/5か年度)
事業の実施者	NPO法人びーのびーの 港北区こども家庭支援課
事業目的	<p>市民が安心して子どもを生み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。</p> <p>【事業・施設運営の基本理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 港北区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営 2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に開かれた運営 3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営 4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営 5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関わることができる視点に立った運営 6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営
事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)
事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。 2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。

1 平成27年度重点目標の評価

平成27年度 重点目標	港北区における常設型の居場所事業を利用する際の子育て家庭の平等性を確保するため、区内の既存の活動状況、利用状況を分析し、今後の子育て支援の活動資源の創出と配置のバランス、持つべき機能を検討する。
取組内容	区と法人が共に、区内の再開発状況、子育て支援に関する資源の状況の検討を重ねて、重点エリアとして綱島東地区を選定し、周辺地域、関係者と協働してサテライト開設に向けて取り組んだ。区南部エリアで長年自主活動の実績のあったNPOのひろば開設申請に協力した
取組の成果	綱島東地区に拠点サテライトを開所することができた。 区南部エリアに親と子のつどいの広場事業の開設が実現した
取組の課題	区北部の川崎市との境界エリアでは、まだ地域子育て支援の資源が不足している。親と子の居場所や当事者による支援活動の場づくりが課題である。
平成27年度 重点目標	子育て家庭に身近な場所での相談機能の充実化を図る
取組内容	身近な場所で行われる相談機能としての、利用者支援事業の在り方の要綱づくり、検討から参画した。その役割、目的について、職員全体で内外の研修に参加するなど、事業について理解を深めた。専任職員配置にあたり、事業周知のため市域共通のリーフレットとともに港北区オリジナルのチラシを作成し、拠点以外の子育て支援活動場所(子育てサロン、地区センター、地域ケアプラザ、公園遊びなど)、行政の関係機関でも地域支援、ネットワーク機能を活かして周知に取り組んだ。個別相談を担当する臨床心理士や、区保健師とのカンファレンスに参加し専任職員の資質向上に取り組んだ。
取組の成果	個別相談は予約枠が十分活用されている。ひろばスタッフとの連携のもと積極的に利用されている。またひろば利用の前に、相談予約から利用される方もある。利用者支援事業は、チラシ周知や、広報あつとどろっぷでの特集紹介、タウン誌での紹介など反響が大きかった。横浜子育てパートナーとして区の制度、関係機関の事業内容の把握、地域での子育て支援環境の把握などに取り組み、利用者にとってハードルの低い相談場所において、暮らし全体から支援を考える素地づくりができてきた。
取組の課題	利用者支援事業はまだ始まったばかりであり、個別支援を通じた、地域の子育て支援関係者のネットワークづくりはまだ不足している。 また地域で暮らすなかで多様な関係機関があり、それぞれ相談機能があるなかで、それを担う職員同士の連携を深めることが相談の質の向上につながる。地域の支援者からもパートナーとして信頼されるような関係性づくりをどろっぷ、どろっぷサテライトの職員全体で取り組むことが必要である。

2 次年度重点目標

平成28年度 重点目標	<p>1. どもっぴサテライトの開所に伴い、港北区北部の子育て支援がより充実するよう、子育て家庭が地域に愛着もって子育てできる環境づくりと、妊娠期から家族になるイメージが持てる具体的で生活に根ざした支援を、区はじめ関係機関と協働しながら実施していく。</p> <p>2. 横浜市全体のオープンデータ構想に伴い、拠点における情報収集発信機能の向上、支援関係者同士がタイムリーに情報共有できる仕組みづくりを当事者と支援関係者とともに検討、提案していく。その仕組み作りを通して、地域のボランティアな活動への担い手発掘を目指していく。</p>
取組内容	<p>1-① 綱島地区および港北区北部の子育て支援状況の把握と支援ニーズの検討 実践者からのヒヤリング</p> <p>② 区からの委託事業の両親教室の実施により、子どもと過ごす生活イメージが具体的に伝わる内容の検討</p> <p>③ 授乳や離乳食や沐浴、遊びなど子どもを世話することを通じた愛着形成のプロセスを応援できるプログラムの実施</p> <p>2-① 地区別意見交換会の実施(南北2つの地域ケアプラザと共催)</p> <p>② 他市区町村の取組み事例の調査・検証(有識者サポート体制を得ながら既存のメルマガやサイトの改善点検討)</p> <p>③ 新たな情報提供の仕組みに関心を寄せる方であれば、世代問わず参加してもらえ、ITスキル普及のための勉強会などを開催する。その参加者がさらに、新たな取り組みを自主的に広げたいような情報が広がる仕組みづくりを構築する。</p>

3 協働のプロセスの評価

取組経過について振り返り、協働に必要な取組が出来ていたかを評価します。

①事業計画段階

		区	拠点	相互評価
1	自分たちが達成すべき大きな目的や理念についてよく話し合うことができましたか。	B	B	B
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	B	B	B
3	お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	B	B	B
4	子育て家庭や子育て支援に関わる市民のニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めることができましたか。	B	B	B
5	目指す拠点の姿に近づくためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	B	B	B
6	この事業の実施目的・目標や事業計画について、ホームページや通信等を使って市民に発信することができましたか。	A	A	A

②事業実施段階

		区	拠点	相互評価
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	B	B	B
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	B	A	B
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	B	B	B
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	B	B	B
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	B	B

③事業の振り返り段階

		区	拠点	相互評価
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できましたか。	A	A	A
2	子育て家庭や子育て支援に関わる市民が満足を得られたかどうかについて、アンケート調査や話し合いによって確認することができましたか。	A	A	A
3	これまでの取組経過を振り返っ、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができましたか。	B	B	B